

教員養成セミナー2月号
動画講義

12カ月完成
教職・一般教養
パワーアップノート

◆第1回◆教育心理
発達・学習・評価

講師：古川聡

テーマ1

発達

遺伝と環境の影響（福井県 2019年）

次の各文は、発達の条件説について述べたものである。下線部の正しいものに○、誤っているものに×をつけた時、正しい組み合わせを選べ。

ア シュテルンは、遺伝と環境との二要因を共に認め、発達はその相互作用の結果生ずるものであるという**輻輳説**を唱えた。

イ ワトソンは、音楽のバッハ家や多くの学者を輩出したダーウィン家などの家系を調べ、才能や能力を規定するのは遺伝的資質であると考え、**遺伝説**を唱えた。

ウ ジェンセンは、学習を成立させるには、心身の機能が成熟し、学習を成立させるための準備状態が整う必要があると考え、**成熟優位説**を唱えた。

- | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|
| ① | ア：正 | イ：正 | ウ：誤 | ② | ア：正 | イ：誤 | ウ：誤 |
| ③ | ア：正 | イ：誤 | ウ：正 | ④ | ア：誤 | イ：正 | ウ：正 |
| ⑤ | ア：誤 | イ：正 | ウ：誤 | ⑥ | ア：誤 | イ：誤 | ウ：正 |

ポイント1：発達に及ぼす遺伝と環境の役割

| 理論名 | 提唱者 | 特徴 |
|----------|-------|------------------------------------------------------------|
| 遺伝説（成熟説） | ゲゼル | 一卵性双生児の階段上りの実験結果をもとに、時期が来ればできるようになるとして遺伝の重要性を指摘した |
| 環境説（経験説） | ワトソン | 環境を変化させればどのような人にも慣れるとして環境の重要性を指摘した |
| 輻輳説 | シュテルン | 発達は遺伝と環境の両方が収斂した結果となって現れるとして折衷を唱えた |
| 環境閾値説 | ジェンセン | 遺伝的可能性があるだけでなく、その発現に必要な環境条件がクリアされて初めて発達となって現れるという相互作用説を唱えた |

発達理論（神奈川県 2019年）

次の各文は、発達理論について述べたものである。（ ）に入る適語の組合わせとして正しいものを選べ。

- (1) (ア) は、**発達の最近接領域**に働きかけることによって、教育は子どもの発達を引き上げることができると考えた。
- (2) (イ) は、乳児期から老年期までにライフサイクルを8つの段階に区切り、各段階に**心理・社会的危機**を設定した。
- (3) (ウ) は、ピアジェの理論を基礎にしながら青年期以降の**道徳性発達**について検討し、**3水準6段階**からなる道徳性発達理論を提唱した。
- (4) **発達課題**という概念を最初に用いた(エ) は、次の発達段階にスムーズに移行するために、それぞれの発達段階で習得しておくべき課題があると考えた。
- (5) (オ) は、パーソナリティを構造的、力動的に捉え、**精神分析学**の立場から理論を提唱した。

- ①ア：ヴィゴツキー イ：フロイト ウ：ハヴィガースト エ：コールバーグ オ：エリクソン
- ②ア：ハヴィガースト イ：エリクソン ウ：コールバーグ エ：ヴィゴツキー オ：フロイト
- ③ア：コールバーグ イ：エリクソン ウ：ヴィゴツキー エ：ハヴィガースト オ：フロイト
- ④ア：ヴィゴツキー イ：エリクソン ウ：コールバーグ エ：ハヴィガースト オ：フロイト
- ⑤ア：ハヴィガースト イ：フロイト ウ：コールバーグ エ：ヴィゴツキー オ：エリクソン

ポイント1：エリクソンの理論

| 発達段階 | 心理社会的危機 |
|------|----------------|
| 乳児期 | 信頼 対 不信 |
| 幼児前期 | 自律性 対 恥と疑惑 |
| 幼児後期 | 自発性（積極性） 対 罪悪感 |
| 児童期 | 勤勉性 対 劣等感 |
| 青年期 | 同一性 対 同一性拡散 |
| 成人前期 | 親密性 対 孤独 |
| 成人後期 | 世代性（生殖性） 対 停滞 |
| 老年期 | 統合性 対 絶望 |

ポイント2：道徳性の発達

| 研究者 | 理論の特徴 |
|--------|----------------------------|
| ピアジェ | 他律から自律、結果論的道德判断から動機論的道德判断へ |
| コールバーグ | 慣習の内面化による3水準6段階の変化 |

親の影響と劣等感（栃木県 2018年）

次の各文は、親の影響と劣等感について述べたものである。関連する用語をそれぞれ選べ。

- (1) ボウルビィが提唱した心理学的概念で、生後間もない乳児が特定の人に対して抱く情愛的な結びつき。

ア アイデンティティ イ インプリンティング ウ アタッチメント
エ ホスピタリズム

- (2) 劣等感を克服するために、社会的優越性を求めようとする意志のことを「権力への意志」と呼んだ人物。

ア アドラー イ ユング ウ フロム エ クレペリン

ポイント：親の影響に関する研究

| 研究者 | 研究成果 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------|
| ローレンツ | 生後初めて見た動く対象に離巢性の鳥類のヒナが追従する行動を観察し、インプリンティング（刻印づけ、刷り込み）と命名した。 |
| ハーロー | 生後間もない子ザルが布製の代理母を好むことを実験で明らかにした。 |
| ボウルビィ | アタッチメント（愛着）という概念を唱え、それが十分に獲得できていないために心身の発達に遅れが生じている状況をマターナル・デプリベーションと呼んだ。 |
| スピッツ | 子どもの入院などにより親が直接養育できないために心身の発達が遅れている状況をホスピタリズムと呼んだ。 |
| サイモンズ | 親の養育態度を「支配—服従」「受容—拒否」という2次元でとらえた。 |

認知発達理論（福井県 2019年）

次の各文の子どもの様子をピアジェの認知発達段階で表した時、適切なものを選び。

- ア 数や量、重さの**保存概念**が達成され、対象物を理論的に思考できる。
- イ **抽象的な命題**を理論的に思考し、仮説を立て、系統的に検証できる。
- ウ 象徴機能が発達し始め、イメージや**表象**を用いて考えて行動できる。

- | | | | |
|---|----------|----------|----------|
| ① | ア：形式的操作期 | イ：具体的操作期 | ウ：前操作期 |
| ② | ア：形式的操作期 | イ：前操作期 | ウ：具体的操作期 |
| ③ | ア：具体的操作期 | イ：形式的操作期 | ウ：前操作期 |
| ④ | ア：具体的操作期 | イ：前操作期 | ウ：形式的操作期 |
| ⑤ | ア：前操作期 | イ：具体的操作期 | ウ：形式的操作期 |
| ⑥ | ア：前操作期 | イ：形式的操作期 | ウ：具体的操作期 |

ポイント

| 認知発達段階 | 目安となる時期 | キーワード |
|--------|---------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 感覚運動期 | 2歳頃まで | 循環反応、物の永続性の理解 →物の存在についての客観的な理解ができる |
| 前操作期 | 幼児期 | 自己中心性、集団的独語、アニミズム、 実念論、人工論 →自分にのみ見方がすべてで多面的な見 方ができない →イメージや表象を利用できる |
| 具体的操作期 | 児童期 | 脱中心化、保存概念の獲得 →多面的な思考が可能になり、数量的 な概念も活用できる |
| 形式的操作期 | 思春期以降 | 数量的なイメージの利用、仮説演繹による 思考 →科学的で客観的な思考が可能になる |